

●ことばの遅れが心配な時は ●

自治体の1歳6か月健診や3歳児健診で、気になることがあれば相談しましょう。

かかりつけの小児科でも良いアドバイスをしてもらえます。また、さらに詳しく相談できる場を紹介されることもあります。

発達全般が気になる時も、保健師や臨床心理士、言語聴覚士、地域の民生委員などが様子を観察して、ことばや発達をうながす支援を行うこともあります。健診の時期だけでなくいつでも相談できます。

小学校入学に向けて心配な時も、保健センターや児童相談所、教育委員会の就学相談会などで相談できます。

悩みや不安を抱え込まず、専門家を頼ってみましょう。心強い子育てのサポーターです。



言語聴覚士がお手伝いします



「話す・聞く・食べる」ことに
問題がある方やご家族の支援をいたします

福岡県言語聴覚士会

事務局

TEL.080-1776-5108

<http://st-fukuoka.or.jp/>



気になることチェックリスト

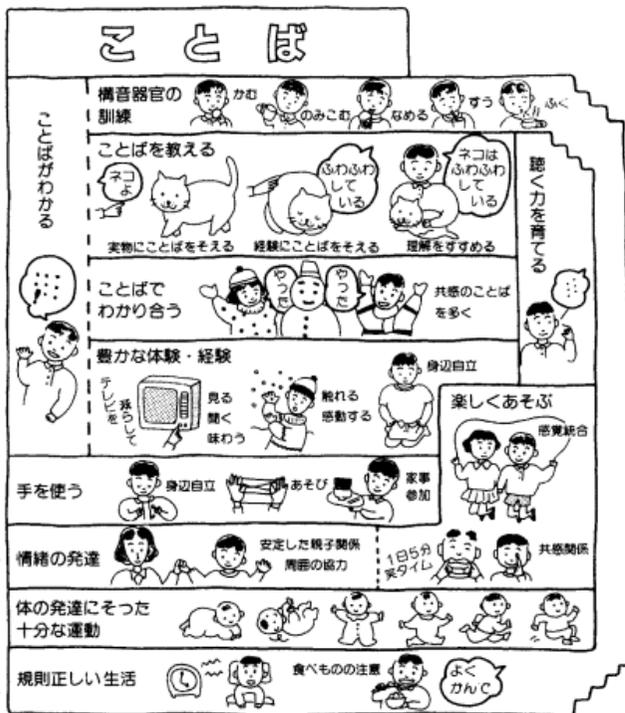
- ことばがでない
- 話すことばが文にならない
- 指さしやまねをしない
- 園の先生や周りの人の指示がわからない
- 集団に入るのが苦手
- 言われたことがわからずに不安そう

● ことばの発達について ●

子どもの発達には個人差があり、ことばの発達も一人一人異なります。

ことばの発達には、「話す力」「ことばを理解する力」「やりとり（コミュニケーション）の力」が必要です。これらの力が育つには、心と身体の成長が欠かせません。睡眠や生活習慣、食事、身の回りのことなどの生活経験が発達を促し、ことばの発達の基礎になります。

下の「ことばのビル」のように、土台となる基礎作りをしっかりと行い、積み上げて行くことが大切です。



ことばのビル

出典「ことばをはぐくむ」中川信子著

● ことばの遅れの原因になること ●

① 耳のきこえ

ことばの発達にはきこえていることがとても大切です。気になったら小児の検査ができる耳鼻咽喉科で検査を受けましょう。

② ことばの理解

ことばの発達は、まず理解することから始まります。絵本の指差しや話しかけを理解しているか見てみましょう。

③ 人とのやり取り

周りの人と遊びや触れ合いはことばのやり取りの基礎になり、コミュニケーションの土台となります。場面や語りかけに合ったやり取りが成立しているか見てみましょう。

④ ことばの限局的な問題

ことばの遅れの多くは①～③が影響しますが、発音が悪い、ことばの聞き取りがうまく出来ない、学齢期になっても文字が読めない、書けないなど遅れとは違った限局的な問題がある場合もあります。



● 家庭でできること ●



- 「ダメ！」ではなく「〇〇しよう！」
ダメという禁止よりも、どうすればよいか、わかりやすく伝えましょう。子どもを認め「できたね」と褒める場面を増やしましょう。
- わかりやすいことばで話しかける。
短く覚えやすいことばや繰り返しことば（ネンネ、ワンワン等）でいいねいに伝えましょう。理解できると子どもは安心します。ジェスチャーや指差しもあわせて使うなど、伝わることを大切にしましょう。
- コミュニケーションの時間を作る。
TV や YouTube、ゲームは子どもにとってとても楽しいものですが、付けっ放し、やりっ放しでは、やり取りをする時間は減ってしまいます。適度に利用し、会話をする時間を増やしましょう。
- 子どもとのふれあいを楽しむ。
歌や手遊び、身体を使った遊びや、感情をこめた表情で接するなど、ことば以外のコミュニケーション（ノン・バーバルコミュニケーション）も、ことばの発達を育てます。お子さんとのふれあいをたくさん楽しみましょう。